

2015.11.7

橘ゼミ：卒論作成方法

昨年までの卒論の初稿段階（ひどい人になると最終稿に近い段階でも）で多かったのは、インターネットのどこかに載っている文章をいくつか切り貼りして、最後に自分の感想を付けたものでした。これでは、レポートにもなりません。卒論を書く人たちは、まず

山口裕之 (2013) 『コピペと言われないレポートの書き方教室:3つのステップ』、新曜社

を購入して読み、**少なくとも**そこで示されている**レポートの基準**を満たす初稿を11月30日までに提出してください。書名から明らかですが、山口(2013)が示しているのはレポートの基準であり、論文(卒論)の基準ではありません。

I. 「思う」「信じる」の二語を使わない

山口(2013)の中でも特に守ってもらいたい約束事は、「思う」「信じる」の二語を文中で使わない、ということです。

II. インターネットからの引用は三点まで

また橘ゼミ独自の卒論基準として、インターネットからの引用(ネットアドレスを参考文献として示すの)は3点まで、とします。できれば、ネットからの引用は、ゼロの方が良いです。

Iは、論文が感想文でないことから明らかです。ここでは、IIについて少し説明しておきます。

大学生以上が書くもので引用文献を示さなくてはならない理由は、

- a) 他者の考えや資料と、自らの考えや自らが作成したデータを分ける = 独創性の提示
- b) 読者が、論文の著者(つまり卒論を書いている貴方)の言っていることが正しいかどうかを検証できるようにする

の二点です。b)を少しかみ砕いて言い換えると、筆者がウソの統計(データ・

資料)で読者をだましていないか、読者が元の統計(データ・資料)を確認できるようにしておく、ということです。ネット上の資料・文章は、随時書き換えられる可能性があります。こうした更新の容易さはネットの強みの一つですが、論文の資料として考えた場合、後々の読者が筆者の記述の根拠を確認できない可能性がある、ということになります。そこで、ネットからの引用は望ましくない、ということになります。

毎年、I, II を徹底させつだけでかなりの時間を無駄にしています。本年度から、I, II が守られていない段階で卒論関連の単位は不可とすることにします。

卒論作成日程

11月20日午後5時：卒論の概略提出
11月末：初稿提出期限

参考文献表作成方法

参考文献

英文

(雑誌論文の例)

Wildasin, David E. (1994) "The q Theory of Investment with Many Capital Goods," *American Economic Review* 74(1): 203-210.

Turner, R. Kerry, David Pearce, and Ian Bateman (1993) *Environmental Economics*, Baltimore: The Johns Hopkins University Press.

邦文

(学術誌に掲載された論文の場合)

春山鉄源 (2012) 「確率的パラエティ拡大モデル」、『国民経済雑誌』、205(6): 41-49.

(本の中の章)

浅子和美・國則守生・井上徹・村瀬英彰 (1997) 「設備投資と土地投資：1977-1994」、浅子和美・大瀧雅之(編)、『現代マクロ経済動学』、323-349、東京大学出版会。

(本)

橘木俊詔・浦川邦夫 (2006) 『日本の貧困研究』、東京大学出版会。

コメントの追加 [T1]: 参考文献表には、本文中(表・図に対する注を含む)で引用した文献の**すべてを挙げなくてはならない**。逆に言うと、引用していないものは示してはならない。本文中で引用しているにもかかわらず引用を明示していないと、剽窃とみなされ、良くて停学、悪くて退学となる。

コメントの追加 [T2]: 参考文献は英文、邦文の項目に分け、前者は第一著者の a,b,c 順、後者はあいうえお順で並べる。

コメントの追加 [T3]: 必ずフルネーム。First author は、Family name, Given name の順

コメントの追加 [T4]: , が”の中であることを注意

コメントの追加 [T5]: ジャーナル名はイタリック

コメントの追加 [T6]: 2行目からインデント

コメントの追加 [T7]: 巻 (volume) 番号

コメントの追加 [T8]: Page 番号

コメントの追加 [T9]: Second author からは、英語では通常通りの Given name, Family name の順で記す。
文中での引用は、Turner *et al.* (1993) となる。

コメントの追加 [T10]: 書名はイタリック。

コメントの追加 [T11]: 書籍タイトルはイタリック

コメントの追加 [T12]: なぜかは知らないが、欧米文献の場合は出版社の存在する都市も記することになっている。英語の本なら見開きにキチンと書いてある。

コメントの追加 [T13]: 論文題目が「」の中。学術誌名は『』の中。

コメントの追加 [T14]: 巻 (号)

コメントの追加 [T15]: 邦文文献の場合は、すべての著者に関して、姓・名の順。

コメントの追加 [T16]: 『現代マクロ経済動学』の何ページから何ページが「設備投資と…」に当たるかを...